

**第 1 回 南関町南の関うから館等活用検討委員会  
会議録**

開催日	2022年8月29日(月) 14:00~16:30	場所	南の関うから館2階会議室
出席者	委員：別紙(委員名簿)の通り 事務局：別紙(委員名簿)の通り 市浦ハウジング&プランニング：高屋、清水、吉水(記録) ブルースタジオ：大島、玉手、西府		
資料	次第、委員名簿(資料1-1)、委員会設置要綱(資料1-2)、委員会の進め方(資料2-1)、仲間集めの手法例(資料2-2)、うから館活用の方向性(資料3)、うから館及び図書館の現状(参考資料1)、ワークショップ募集チラシ案(参考資料2)		
<p><b>1. 開会</b></p> <p><b>2. 辞令交付</b></p> <p><b>3. 佐藤町長挨拶</b></p> <p>委員の皆様には、任期の来年3月末まで、町民の安心・安全な暮らしのためにもそれぞれの立場からご尽力いただきたい。今春、新庁舎ならびに各行政施設が新庁舎敷地内に移転・オープンした。これに続くうから館は町の中心施設となり、すべての年代の方に長く喜んで利用される施設とならねばならない。そのため検討過程ではワークショップも開催し、幅広い意見を取り入れたい。本日は活用の方向性について運営事務局より示し、委員の皆様のご忌憚のない意見をいただきたい。</p> <p><b>4. 委員紹介および委員長の選任</b></p> <p>各委員、事務局、受託者・協力事務所より簡単な自己紹介を行った。</p> <p>続いて事務局推薦により、委員会設置要綱第5条の2項(資料1-2)に従って、西郷委員を委員長に、大木委員を副委員長に選任した。</p> <p><b>5. 委員長あいさつ(西郷委員長)</b></p> <p>昨年度以前にも、貴町の庁舎建設委員会・コンパクトシティ委員会に携わらせていただいたが、活発な議論が展開されたのが印象的だった。本委員会でも忌憚のない活発な議論を期待する。多少関係ないと思われる内容でも、議論の中で有用な意見につながる場合があるので、ぜひ積極的にご発言いただきたい。</p> <p><b>6. 議事</b></p> <p><b>(1) 活用委員会の進め方について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局より委員会設置要綱第1条、第2条を説明した。</li> <li>・活用委員会の進め方について受託者(市浦)より説明した(資料2-1)。</li> </ul> <p>■資料1-2質疑</p> <p>西郷委員長 本委員会は、事務局の提示する計画について意見を出して内容をもみ、最終的には承認をする場ということで良いか。</p> <p>竹崎課長 そのご認識で良い。</p> <p>松本委員 これまで文化活動等で公民館を活用してきた実績のある団体について、統計的に把握されているか。大きなビジョンも重要だが、これまでの公民館機能・利活用の実態からのニーズ把握も必要である。</p> <p>武田委員 教育課に、公民館利用者数についての資料は存在する。</p> <p>西郷委員長 公民館・図書館にかかる基礎資料・データを念頭に置き、適宜委員会で参考資料等として示していただき、これを元に検討を進めるということでもよろしいか。</p>			

竹崎課長 その通りである。

永松(泰)委員・松本委員 2点お尋ねがある。①設置要綱にある「周辺の公共施設等」とは具体的にどこを指すか。②また、「本のあるたまり場」というコンセプトは議論の前提条件か。

竹崎課長 ①メインの検討はうから館自体の基本方針や基本検討であるが、付随して旧役場、図書館(=周辺の公共施設等)についても検討する必要があると考えたため、要綱に記載した。御茶屋までは考えていない。

西郷委員長 委員会ではうから館の議論を中心に据え、そこで考えた内容は周辺の公共施設等(=基本的には現図書館を指す)にも影響を与える可能性があるという理解で進める。②についてはいかがか。

大森係長 ②うから館を「本のあるたまり場」とすることは、昨年度の地域未来構想(以下、未来構想)でワークショップ(以下、WS)等の結果に基づき決定されたもの。そのため本委員会ではこれを検討の前提条件とし、具体的な活用を決めたい。

永松(泰)委員 案に関連した質疑を出し、いただいた回答に基づいて議論を深めるといったことも可能か。

西郷委員長 可能である。

#### ■資料2-1(1) 質疑

島崎委員 “「本のあるたまり場」を中心に置いた、子どもから高齢者まで楽しめる場所”とあるが、本を中心にするなら、まずは図書館設備の充実が必要である。現在の図書館は大人向けなので、全世代向けにするべきではないか。図書館移設せずに新たなたまり場を作る考え方もあるが、私は図書館の移設が望ましいと考える。例えば子ども図書室をつくり、親向けの図書の充実や子育ての悩み相談コーナーも付設するのはどうか。

西郷委員長 図書館移設を前提とはせず、「本のあるたまり場」の在り方も含めて議論する場であるため、島崎委員のようなご提案も今後の議論の土台に乗ってくる。

前田委員 現段階で改修後のうから館の運営方法(町の直営、業者に委託等)についてどう考えているか。私見であるが、指定管理者は町民との関わりが切れてしまうため、あまりよくないと思う。

人口規模9000人程度の町で図書館があるのは誇るべきこと。ただし立地の影響で地区間の図書館利用格差があるため、図書館自体の充実と併せて各校区とのネットワークも必要である。図書館周辺や町の人口流入も把握する等して、15年先を見据えて図書館の在り方を考えるべきである。図書館があることの重要性やそこで経験できることの重みは子どもにも伝えるべきではないか。また、図書館をうから館へ移設する場合は本へのダメージについても考慮すべきである。

竹崎課長 現図書館の全移設の可否判断はこれからである。「本のあるたまり場(1階)=図書館の移設」ではない。また、置くべき本の規模はご検討いただきたい。運営方法については白紙の段階である。

大森係長 各校区とのネットワークについて未来構想で方向性を示している。モデル地区の施設が他校区の町民からも利用されるようにとの観点から、うから館のコンセプトを「多世代交流拠点」と据えた。

西郷委員長 未来構想では、乗合タクシー等を活用して地区をまたいだ施設利用を促すことにも言及されていたと思う。

#### ■資料2-1(1)(2)質疑

嶋永委員 ①図書館をうから館1階に全移設する場合、収まらないように思うが、どの程度ボリュームに自由度があるのか。②公民館機能をうから館2階に移設する場合、規模縮小となる。足りない部分の増築等も提案が可能か、あるいはあくまでうから館1階の面積内で実現可能な検討をするのか。③また、本委員会ではどの程度の実現性(規模・ビジョン・財源)を見据えた議論をするのか。

西郷委員長 前提として、委員会は事務局より提示された案に対し意見・対案等を述べる場であり、委員会で一から案を作成したり、何か決定したりするものではない。事務局の作成案に意見が反映されることになる。

竹崎課長 うから館その他を増築・拡大する考えはないので、「現存する建物の改修」として検討してほしい。

大森係長 公民館は耐震性の課題から閉鎖し、代替機能として既いうから館が利用されているものと理解している。

大木副委員長 旧公民館の諸室は、ホール・会議室数室、他の小部屋で、これがうから館2階に移設された。この機会に使い勝手を向上させてほしいという要望は聞いている。

坂田委員 未来構想では、うから館2階を(改修は極力せず)公民館のホール機能として活用するとして議論を深めない方向とした。今回は、1階の活用の議論が焦点である。

竹崎課長 夢のような提案が出ると思うが、今回の議論では機能の必要性を十分吟味し、財源の限界もある程度考慮して、よりよい活用の検討をしてほしい。

#### ■その他：建物状態の確認、既往活動団体への配慮

松本委員 調理場を活用している団体から、水道や排水の不調の報告がある。公民館の閉鎖により活動休眠している方等の、今後の活動の場の調整はどのように考えているか。彼らへの機会・情報提供等のバックアップが必要ではないか。

竹崎課長 調理場の水道は現在、業者に見てもらっている。公民館の利用実態把握はある程度町でしているが、他にもある場合は情報提供いただきたい。

西郷委員長 既存の活動団体の今後のさらなる活発な活動を促すことは、うから館のよりよい活用にもつながるので、事務局としても尊重することを考えていると思う。

山口委員 関連して、現在子ども食堂をうから館で開催しているが、水道の一部・ガスレンジが故障している。活用方策検討中でも修理等対応いただけるのか。

西郷委員長・竹崎課長 現時点の決定事項はうから館が「多世代交流の場」ということのみである。子ども食堂を含め、既存の活動は尊重した上で「本のあるたまり場」としての活用を検討する。

大木副委員長 これまでの使用状況のデータ等は事務局で把握しているはずなので、よく確認して

ほしい。

島崎委員 うから館の今までの機能（調理室等）は継続して使えるようにしつつ、追加の活用を検討する場であるべきだと思う。

前田委員 うから館は耐震性の問題はないか。また、雨漏り箇所があるが問題ないか。

坂田委員・嶋永委員 うから館は耐震性・構造に関しては問題ない。雨漏り等の老朽化箇所は今後補修して対応できる。

#### ■資料2-1（3）質疑：委員会スケジュール・WSの開催について

坂田委員 昨年度のWSは平日の夜に開催することで人集めができたが、第1回WSを忙しい土曜午前とするのは、委員も含めて人集めが難しいのではないか。

大森係長 まち歩きをする観点（環境的に歩きやすい／日常の活動が行われている時間帯）から時間設定した。（昨年度WSの参加者等を中心に、周知方法は、区長便による全町民へのチラシ配布（9/15）、本委員会の委員や前回WS参加者等への事務局からの声かけを考えている。ご意見を元に時間帯を調整する。

坂田委員 広く意見を収集する場であるWSの参加が委員のみだと、WSの意義がなくなる。

山口委員 WSを行う意味はどこにあるのか。昨年度の複数回の意見の集約も大変ではないか。

西郷委員長 事務局より資料2-2と3の説明をしていただいてから、この議論を再開する。

#### ■資料2-1（5）質疑：基本計画策定までの流れについて

西郷委員長 第3回活用検討委員会を経て取りまとめられた案を、委員会として見る機会はないのか。紙面送付等してもらえるのか。

大森係長 第3回終了時点で細かい修正点しかないようであれば、委員長判断で承認いただき、各委員への紙面送付を行う予定である。

大森係長 第2、3回検討委員会は公開開催としてよろしいか。

→満場一致で可決した。

### （2）うから館の活用の方向性について

受託者より資料2-2、3と、WSの意義を説明した。

#### ■WSチラシの表現

岩下委員 チラシで「うから館活用」を強く打ち出しすぎると、「自分はどうから館に関係ない」と感じ参加を控える人もいると思う。むしろうから館を中心とした町（関町）全体の活性化を考えるのが目的であるので、表現を工夫したほうがよい。

嶋永課長 WSはマルシェ等のイベントと抱き合わせて開催することで、参加者を取り込みやすくなるのではないか。また、WS参加者は南関町に住み慣れた人だけでなく、新規居住者や外部の人の目線もあるといいのではないか。

大島（ブルダ） チラシではうから館活用は明示しつつ、より「まち歩き」を打ち出す、写真に周りの情景を取り込む等、表現を工夫する。

- 松本委員 ①公民館閉館後、公民館の代替機能について町民に情報が行き渡っていないと感じる。②また、うから館が公民館の代替という認識でいた人は、WS内容に戸惑うのではないか。「うから館の活用の仕方はあなたたちの声次第です」等の文言がチラシにあると良い。
- 西郷委員長 情報の周知については、これを機に町に対応いただきたい。町民の理解を得るため、チラシのなかに未来構想での検討結果等のWS開催経緯の説明があると良い。
- 高屋（市浦）・大島（ブルスタ） どんな施設でも公民館的活用はあるべきだと考えており、うから館1階でもそうした検討は可能というニュアンスをチラシで表現することで、幅広い層に関心を持ってもらえるよう努めたい。

#### ■WSまち歩きのリート・内容等

- 前田委員 まち歩きのリートやイメージを教えてください。
- 高屋（市浦） 数グループに分かれ、それぞれに先導役（ファシリテーター）がついて歩くイメージ。資料3のP05で示す程度の範囲を想定しているが、リート等は改めて検討する。
- 大島（ブルスタ） まち歩きでは歩きながら参加者同士で気づきを言い合う。さらに、その後のグループワークで、面白いと思ったことや発見を地図上で共有・発表等をする。
- 前田委員 まち歩きでは町の中の人の流れ・集まり方も見るのか。その観点では、2回のWSの時間帯を午前／午後に分散させるのもよいのではないか。
- 高屋（市浦） ご意見の通り様々な視点から町を見ていただきたい。まち歩きを同日に2回行うのは、事務局の負担が重く検討していないが、2回目のWSの午後開催は検討する。
- 西郷委員長 本日の意見を適宜反映してWSを開催し、その結果を踏まえて事務局が作成した検討案を、第2回活用検討委員会で協議することとする。

#### （3）その他

- 大森係長 第2、3回検討委員会は公開開催としてよろしいか。  
→満場一致で可決した。
- 高屋（市浦） 資料3は、委託業者からの提案としてWS参加者に示す予定である。内容等についてお気づきの点や感想等があれば、事務局（大森係長）までお寄せいただきたい。

以上